

年次報告書

40年目、存在意義に立ち返った2020年

本力を、
生きる力に。



シャンティ国際ボランティア会
Shanti Volunteer Assoc.

40th
anniversary

シャンティ2021年5月1日発行 増刊 通巻310号
1985年6月28日 第三種郵便物許可 ISSN1343-4748

シャンティ国際ボランティア会



シャンティは2020年12月10日、 団体設立40年目を迎えました。



ごあいさつ

日頃変わらぬご理解とご支援をいただいておりますこと心より感謝申し上げます。また、新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の事態により大変ご不自由な思いをされていることと拝察し、お見舞い申し上げます。

2020年12月10日、シャンティはカンボジア難民救済をきっかけに活動を開始してから40年目を迎えました。この間、平坦な道のりではありませんでしたが、一貫してご支援いただきました皆様に、改めて御礼申し上げます。

2019年よりスタートした中期事業計画の推進に向け、現在7カ国8地域に事務所を置き、国や地域の状況に合わせ、教育行政と連携しながら、公教育・学校外教育現場で教育文化支援活動を展開しています。しかし、昨今のコロナ禍において、世界中で困難な状況にいる人々は、子どもを含めて更に厳しい現実と直面しています。この傾向は日本国内における子どもの貧困の課題としても浮き彫りになりました。そこで2020年はアジアでの経験と学び、そしてつながりを生かし、日本国内における子どもの貧困と外国にルーツのある子どもが抱える課題を解決するための新たな事業を開始しました。

「持続可能な開発目標（SDGs）」の理念に「誰一人取り残さない社会の実現」とありますが、皆様と常日頃からの連携をはかり、平和な社会の実現に向けて共に歩んで参りたいと思います。

会長

若林恭英



団体ロゴをリニューアルしました。

シャンティは団体設立40年目を迎え、団体ロゴのリニューアルを行いました。新しいロゴは、シャンティの理念である「共に生き、共に学ぶ」ことのできる社会の実現への想いと、シャンティが守り続けてきた本を通じた教育文化支援活動を体現しています。

今後も1冊の本から希望を見出した子どもたちが、自らの未来を切り拓いてほしい。これまでに蒔いた本の種から、芽が出て、花開きますように、という願いが込められています。

ロゴシンボルの選定は、全役員および国内・海外事務所全職員による投票で決定しました。



シャンティ国際
ボランティア会
Shanti Volunteer Assoc.

40周年記念ロゴを作成しました。

40年目を記念して、特別なロゴを作りました。

シャンティの40年間の軌跡を40粒の“種”で表現し、新しい団体ロゴの“芽”と連動しています。ひとりひとりの人生の“芽”が出るための“種”をシャンティが蒔き続けてきたことを再確認する特別記念ロゴです。

ひとつひとつの“種”の形は異なり、40という数字には現れない、これまでの苦労や努力、工夫を忘れずに、これからも丁寧に活動続ける意思も表現しています。



目次

- 3 ごあいさつ・40年目のご報告
- 4 2020年を振り返る・コロナ禍での取り組み
- 6 海外の活動実績
- 7 タイ
- 8 カンボジア
- 9 ラオス
- 10 アフガニスタン
- 11 ミャンマー
- 12 ミャンマー国境支援事業
- 14 ネパール
- 15 緊急人道支援
- 16 国内の活動実績
- 17 国内の活動
- 18 ご支援・ご協力・連携実績
- 19 シャンティとは
- 20 組織・ネットワーク一覧
- 22 会計報告

存在意義に立ち返った2020年

シャンティ設立40年目を迎えた2020年は、

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界が未曾有の危機下となりました。

そのような中、シャンティ役職員が一丸となって

歩みを止めずに進んできた1年を、事務局長の山本英里が振り返ります。



事務局長

山本 英里

今こそシャンティが動くとき。

各国事務所が一丸となった2020年

シャンティにとっての2020年を表現するとすれば、ようやく少し舗装された道が見えたと思いきや、目の前に広がっていたのは獣道。ただし、その獣道にひるむことなく、古いけれど馬力のある車で前進していったような1年でした。

各国で新型コロナウイルスの感染が広がるなか、職員の安全をどう確保するか、事業を進められたとしてもそれによって自分たちが感染拡大を引き起こす可能性もあり、各事務所が事業継続に対して葛藤を抱えていました。しかし、コロナ禍で大きく影響を受けるのは、日頃からシャンティが支援しているような経済的に厳しい人々です。明日食べるものもままならないという状況が日を迫るごとに深刻化するなかで、職員から挙がったのは「今こそシャンティが必要とされているのではないか」という声でした。物資を届けるために動く職員は感染リスクが高いにも関わらず、彼らから出た言葉に驚いたと同時に、改めて私たちはNGOとして何ができるのかを考えて動くべきだと思いました。

困難なコロナ禍にあっても支援を届けるために何をすべきか、歩みを止めないためのアイデアがどの事務所からも数多く出され、国内外において「自分たちで事業を進めていく」という意識が強化されたように感じます。

中期事業計画を軸に、柔軟に対応し、事業を推進

シャンティは2019年度に、2024年度までに取り組む6か年の中期事業計画を新たに策定しました。設立以来一貫して持続可能な未来づくりに欠かせないと考えている教育文化支援活動のさらなる強化に向けて、専門性を生かした海外事業の展開や日本国内における新規事業の開始、パートナーシップの強化、組織の国際化など組織全体として達成すべき内容を掲げたものです。

2020年は中期事業計画において、各部門が2019年から準備してきたことを本格始動させる段階だと考えていました。しかし、いざ意気込

新型コロナウイルスへの
シャンティの取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大により、シャンティの活動地であるアジア各国、そして日本でも、学校の休校や移動制限などの措置が取られました。社会が混乱したことにより経済的に困難な状況に陥った人、学びの場が失われた子どもたちに対し、シャンティはその時々での現地のニーズに合わせ、必要とされる支援活動を実施してきました。

衛生用品・食料など物資の配布

実施時期：4月～

対象国：ネパール、ミャンマー（ビルマ） 難民キャンプ、アフガニスタン

感染拡大による社会の混乱や経済の悪化で、生活が困窮する人々が急増しました。シャンティは緊急支援として食料や衛生用品の配布を行いました。

ネパールでは海外から帰国した移住労働者の受け入れ対応を行う人たちへの感染予防物資の提供、アフガニスタンでは特に生活が困窮している家庭へ食料と衛生用品の配布を行いました。一時閉鎖された難民キャンプでは、医療NGOと食料支援NGO以外の入場が禁止され、他のNGOを通して図書館へ衛生用品を届けました。



ミャンマー（ビルマ）難民キャンプの図書館へ届けた衛生用品

感染予防の啓発活動

実施時期：4月～

対象国：アフガニスタン、ラオス

シャンティは、物資の配布とともに、正しい衛生知識や情報の提供、石けんを使った手洗いの練習など、感染予防についての啓発活動を行いました。

アフガニスタンでは、感染予防の正しい知識を伝えるため、読み書きができない人にも理解してもらえるようイラストを多用しカラフルな配色にした啓発資料を作成しました。ラオスでは、教員や教育関係者、図書館員が集まる研修内で、感染予防対策研修を行いました。その中で、楽しみながら手洗いの大切さや正しい洗いを学べる「手洗いソング」を紹介しました。



啓発資料を読む少年

んで迎えた年始早々にコロナ禍となり、計画を遂行するために柔軟な対応が必要となりました。

たとえば、2020年に新たな国内事業として開始した外国ルーツの子どもたちの居場所づくりは、中期事業計画で当初予定していた対面での居場所づくりがコロナ禍の影響を受けて難しくなり、オンライン上の居場所づくりに転換する必要がありました。結果として、職員は協働団体とともに迅速に実施方法を切り替え、シャンティとしてこれまでにない一歩を踏み出すことができました。活動を通して日本における子どもの貧困が深刻な状況であることが露呈したことから、これまでは海外支援を主としていましたが、今後は日本でも支援を進めていく必要があると改めて強く感じています。

また組織としても、在宅勤務など働き方の選択肢の拡充、これまでとは違うツールを活用したコミュニケーションの導入など、想定が難しい危機に対応するための基盤整備が進み、当初の計画以上に成果を出せたように感じています。

2021年は40年の蓄積を発揮しながら、
シャンティとしてできることを前向きに

2020年はコロナ禍においてさまざまな対応に追われた1年でしたが、各国事務所が一丸となってこれまでにないチャレンジに取り組み、職員一人ひとりによって事業を前進させることができました。海外事業・国内事業ともに、オンラインツールやラジオなど新たなコミュニケーション方法に着手し、形を変えながらも教育文化活動を継続することができました。しかしその一方で、私たちが活動している地域ではインターネット設備やデバイス類が普及していない場所も多いため、どうしたら満遍なく子どもたちに学びを届けることができるかは、今後も検討が必要な課題です。

2021年はコロナ禍の影響のみならず、社会情勢が急激に変化する中で政情不安に陥る可能性もあり、難しい局面が増えると予想しています。また、長い年月をかけて貧困の連鎖を断ち切るために築き上げてきた教育の基礎がコロナ禍で崩れてしまうことを懸念しています。そんな中でも、2020年に生まれた新しいアイデアを伸ばしながら、シャンティらしく楽しみながら柔軟に、そして前向きに取り組んだ先に、シャンティの新しい姿が現れるのでは、という期待も持っています。

これまでも危機的状況が起こった時に、シャンティのミッションである「最も困難な人びとに支援を届ける」という想いと行動が必要とされてきました。これからも皆さまと手を取り合いながら、40年の蓄積を最大限発揮してまい進していきたいと思います。

図書館活動の新しい取り組み

実施時期：4月～

対象国：カンボジア、ミャンマー、ミャンマー（ビルマ） 難民キャンプ

感染拡大防止措置により、各国で教育施設や図書館が閉鎖されました。オンラインを活用したコミュニケーションが必要とされ、シャンティは絵本出版や読み聞かせなどこれまで培ってきた経験とノウハウを生かした新しい取り組みを各地で開始しました。

カンボジアとミャンマーではデジタルライブラリーや読み聞かせ動画の制作・配信。一時的に図書館が閉鎖されたミャンマー（ビルマ）難民キャンプでは、子どもたちが安心して図書館を利用できるよう、入館前の手洗いと検温、マスクやフェイスシールドを装着しての読み聞かせなどに取り組んでいます。



ミャンマー事務所で制作した読み聞かせ動画を

たのしく学べるおうち時間

実施時期：6月～

対象国：日本

シャンティは、家庭で過ごす時間が増えた子どもたちの健康や心のケアを目的に、家で楽しく学べる時間を届けたいという想いから、ひとり親家庭、生活保護家庭、外国にルーツのある家庭、被災家庭の子どもたちを対象に、世界の子どものことを学べるオリジナルワークシートや絵本、文房具などを配布しました。



小学校低学年向けのワークシート



「たのしく学べるおうち時間」特設ページ
動画を見ながらワークシートに取り組むことができます

オンラインイベントシリーズ【国際協力の現場から】

実施時期：6月～ 11月

感染拡大防止のため各国で取られた出入国制限措置により、2020年は現地スタッフが訪日しての活動報告を行うことができませんでした。そこで、月1回、各事務所の所長と現地スタッフが登壇して、コロナ禍での活動地の様子を伝えるオンラインイベントを計6回（アフガニスタン、ミャンマー、ラオス、カンボジア、ミャンマー（ビルマ） 難民キャンプ、ネパール）開催しました。



現地スタッフが写真とともに活動地の様子を報告

これまでの活動実績（2020年末まで）

実績1 学ぶための本や活動

	2020年度	通算
絵本出版	12 タイトル	521 タイトル
届けた絵本	16,719 冊	347,035 冊
図書館利用者	31万人	1,601万人



実績2 学びを届ける人

	2020年度	通算
研修参加者	38 回 / 1,343 人	674 回 / 38,679 人



実績3 安心して学べる場所

	2020年度	通算
学校建設	10 校	424 校
図書館・図書室設置	63 館・室	1003 館・室



実績4 緊急人道支援

	2020年度	通算
出動回数	6 回 ・海外5回 ・国内1回	76 回 ・海外47回 ・国内29回

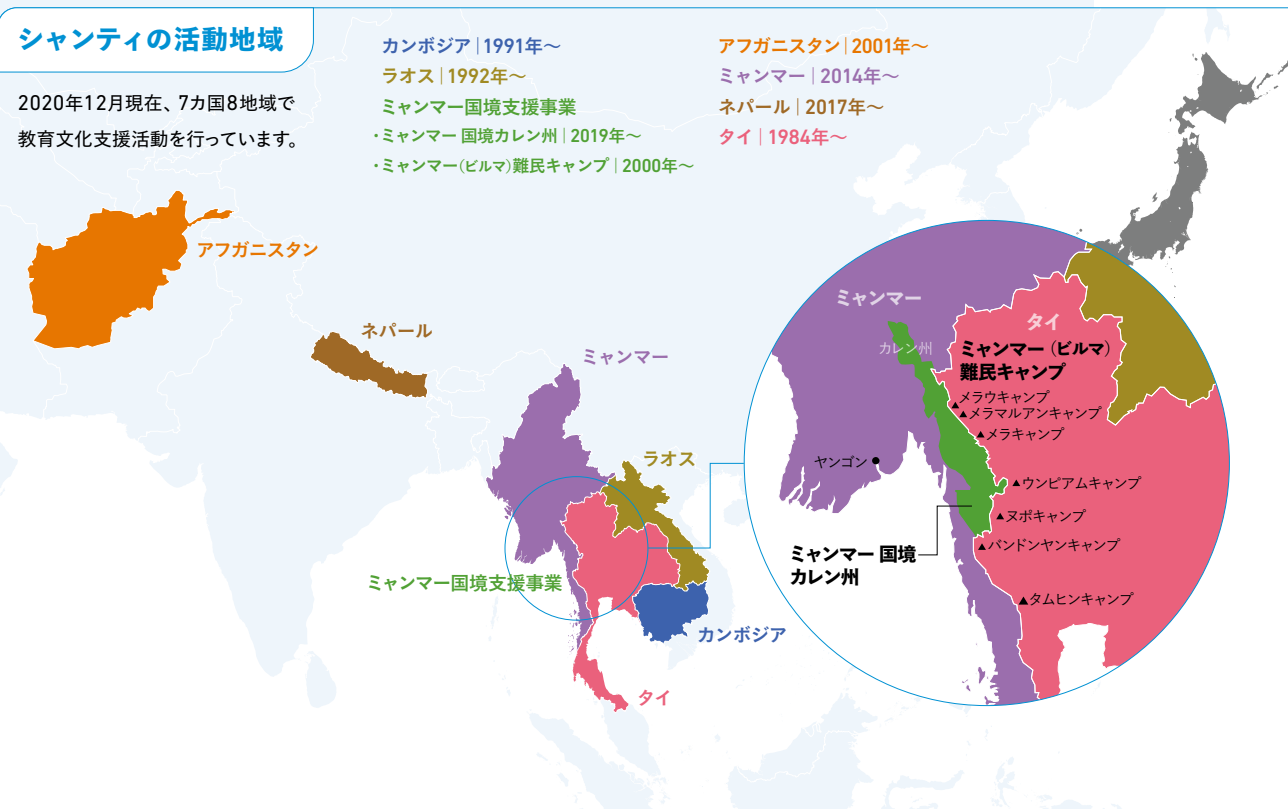


シャンティの活動地域

2020年12月現在、7カ国8地域で教育文化支援活動を行っています。

カンボジア | 1991年～
ラオス | 1992年～
ミャンマー国境支援事業
・ミャンマー 国境カレン州 | 2019年～
・ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ | 2000年～

アフガニスタン | 2001年～
ミャンマー | 2014年～
ネパール | 2017年～
タイ | 1984年～



Thailand

タイ

スラム地区、少数民族地域での教育文化支援活動

タイでは2月下旬から新型コロナウイルスの感染が拡大し、タイ経済は大きな打撃を受け、教育施設も一時的に閉鎖されました。貧困層の生活がさらに困窮をきわめるなか、2020年は424人の奨学生に奨学金を授与することができました。また、移動図書館活動の中で人形劇や紙芝居を使った感染予防の啓発活動を取り入れたり、生活に困窮している人々に感染予防物資や生活必需品の配布も行いました。



実績

図書館活動参加者：
4,961人
奨学金支給者
424人



事業

1. 教育の機会改善事業（バンコク・スラム地区、バヤオ県、ターク県）

2020年は、中高生合計403人（バンコク44人、バヤオ県143人、ターク県216人）と大学生21人の合計424人に奨学金を授与しました。奨学金事業は毎年2月に対象の3地域にて家庭訪問を実施しますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で奨学生の選定が遅れました。

前期奨学金授与式を7月にバンコク、バヤオ県、ターク県の3カ所で行いました。後期は、バンコクで12月19日に株式会社ニコンタイランド、在タイ日本国大使館、日本人会、JICAタイ事務所の代表などの来賓をお迎えして実施しました。

2. 移動図書館を通した読書推進活動

4月と5月はタイ政府の方針により移動図書館活動を中止しました。6月から活動の禁止事項が緩和されたため、バンコクのスラム地域とバンコク郊外のサムットサーコーン県のミャンマー人を対象に、移動図書館活動を実施しました。27地域を中心に計259回行い、子どもたち

4,961人が参加しました。また、感染予防のためのマスクやアルコール、生活必需品などの配布も行いました。



シーカー・アジア財団の職員
*タイでの活動は、シャンティの元タイ事務所、現在は現地法人のシーカー・アジア財団（SAF）が行っています。シャンティとはパートナーとして事業運営における連携を行っています。

所長メッセージ

シーカー・アジア財団
事務局長
ナリラット・
ターンジャンルンバムルンスック



3月から6月にかけて、政府は図書館、保育園を含む教育施設の閉鎖を決定し、シーカー・アジア財団（SAF）もバンコクのスラム地域で運営するコミュニティ図書館を閉鎖、移動図書館活動も停止をするなど、大きな影響を受けました。その後、学校の再開や移動制限の緩和に伴い、少しずつ活動を再開していき、移動図書館活動では、人形劇や紙芝居を通して感染予防の啓発活動を行いました。奨学金を受けた生徒の中には、家族が経済的にさらに困窮しているケースもあります。そのような状況のなか、奨学金の授与式を無事に開催でき、困難な状況にある生徒たちを励ますことができました。

Cambodia

カンボジア

オンライン上に電子図書館を開設

新型コロナウイルス感染拡大の影響により経済活動が制限されたため、コロナ発生前の経済成長率に戻るには時間がかかる見込みです。全国の教育機関も一部期間を除いて3月から12月まで閉鎖されました。シャンティは、学びの機会が不足する子どもたちのために電子図書館を開設し、これまで出版した絵本と読み聞かせ動画をオンラインで提供しました。関係者との対面での会議も制限されたため、電話やオンラインツールを利用して事業を行いました。

実績

図書館活動参加者：
37,929人
研修会参加者：
101人
学校建設：
4校

●バンテイミンチェイ
●シェムリアップ
●バットアンバン
●コンボントム
●プーサット

●ブノンペン



事業

1. 学校建設

小学校4校を建設し、過去支援校1校の修繕を行いました。支援校では校舎やトイレの維持管理研修も実施しました。

2. コミュニティ図書館運営支援

コミュニティ図書館 (CLC) を運営する地元住民の要望に応じ、図書購入費用の一部を活用してマスクや石けんなどの感染予防物資を購入し、配布しました。感染対策を講じながら移動図書館活動も実施し、年間で351人が参加しました。

3. 幼児教育の質の改善

9月から開始した本事業は、事業の開始に先立ち、6月～7月に教育省および関係部局とともに事業対象となる51の幼稚園を選定しました。8月にバットアンバン市中央幼稚園の贈呈と事業開始の記念式典が行われ、教育省大臣が出席しました。9月～12月に、ガイドブック作成のためのタスクチーム会議、日本の保育士・幼稚園教諭による技術指導を実施しました。

その他：

3月から全国の学校が閉鎖され、子どもたちの学習時間および質に大きな影響を与えています。そこでオンライン上に電子図書館を開設し、自由に絵本を読み、読み聞かせを聞くことができる環境を構築しました。



カンボジア事務所職員

所長メッセージ

カンボジア事務所
所長
加瀬 貴

1月に新型コロナウイルスのカンボジア国内1例目が確認されましたが、政府の防疫対策や国民の自衛意識が機能し、大規模な感染拡大には至っていません。しかし教育施設の閉鎖や集会の自粛などの対策がとられ、生活が大きく変化した1年でした。私自身は新型コロナウイルスの発生以来、継続してカンボジアに滞在しており「困難な時間を共に過ごすことこそ、国際協力を志す者として大切なのではないか」「外国人として自分が感染した場合、結果としてこの国の人々に迷惑をかけることになるのではないか」など苦悩する日々が続きました。しかし、なによりもカンボジアの子どもたちに寄り添う支援を行うための努力を重ねていきたいと思っています。



Laos

ラオス

少数民族の子どもたちの学びを支え続ける

ラオスでは新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学校が3月後半から2カ月程度休校となりましたが、幸い感染が抑えられたため、夏休みの補習で授業の遅れを取り戻す事ができました。一方、国内における教育格差は大きく、少数民族が多く住む地方の子どもたちの学習達成度は都市部に比べてかなり低い状況です。地方の子どもたちの学びを支えるため、農村部に多い複式学級を担当する教員向けの研修、学校建設、読書推進活動などを継続しました。

実績

図書館活動参加者：
1,128人
研修会参加者：
354人
学校建設：
2校

●ルアンババーン

●ビエンチャン



事業

1. 学校建設

- ・2019年に建設した小学校2校において、竣工8か月後に検査を実施、うち1校では衛生教育も実施しました。
- ・2020年建設対象の小学校2校の協定調印式を行い、2校の建設を開始しました。またトイレ2棟を建設しました。

2. 移動図書館を通じた読書推進活動

- ・絵本1タイトル1,200冊、紙芝居1タイトル125冊の再販を行いました。
- ・ルアンババーン県の小学校12校において移動図書館を継続し、読書推進活動が不十分な10校で追加の移動図書館を実施しました。これらの活動には生徒1,047人と教員・住民81人が参加し、計1,079冊の図書が貸し出されました。
- ・ルアンババーン県の小学校24校の教員を対象に読書推進活動の振り返り会議を実施しました。

3. 複式学級運営改善事業

- ・ラオスの教育スポーツ省及び教育関係者とシャンティが協力して作成した「複式学級運営の手引き」が、事業対象地で使用可能な試用版として、教育スポーツ省から承認されました。
- ・10月にルアンババーン県内2郡の教育スポーツ局職員12名を対象に、複式学級運営トレーナー養成講座を開催しました。
- ・11月と12月に、ルアンババーン県内2郡の教員計120名を対象に、複式学級の実践力研修(教員研修)を実施しました。



ラオス事務所職員

所長メッセージ

ラオス事務所
所長
玉利 清隆



2020年は世界中が深刻な状況にありましたが、ラオスの良いところを感じる年でもありました。コロナ予防対策では、ラオス政府による早めの水際対策が功を奏しました。3月中旬、まだ感染者が発生する前に特別対策委員会を立ち上げ、国民に対して様々な注意喚起を行いました。ラオス人の国民性もあり、政府からの通達をよく守っており、結果として感染拡大を封じ込めています。昔ながらの家族・親戚間のセーフティネットの強さも感じています。失業した人々のなかには田舎の両親の元に帰り、畑仕事や自営業を手伝うなど、家族みんなで支えています。早く元の生活に戻れる日が来ることを願っています。

Afghanistan

アフガニスタン

第1号モデル学校図書館の完成

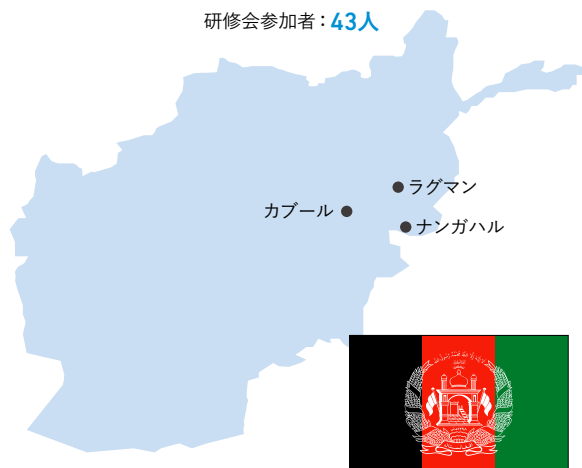
長引く紛争に加えて新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、アフガニスタンの子どもたちはとても厳しい状況に置かれました。全国の学校と教育機関が3月中旬～9月まで閉鎖となり、シャンティが運営する子ども図書館も半年間の閉鎖を余儀なくされました。その後、学校の再開や活動制限の緩和に伴い、コロナ禍でも可能な読書キャンペーンをはじめとする、子どものための図書館普及に向けた活動を行いました。

実績

絵本・紙芝居出版：**5タイトル、10,000冊**

図書館活動参加者：**22,178人**

研修会参加者：**43人**



事業

1. 子どものための図書館普及にむけた基盤整備事業

- ・カブール市内にある大規模女学校（小・中・高校）にモデル学校図書館1棟を建設し、家具や図書を配布しました。2021年3月下旬の新学期より、本校生徒5,726人と教員170人及び周辺地域の子どもや教員の利用を予定しています。
- ・図書館普及のマスタートレーナーとして、関係省庁職員、公共図書館員、教員養成校教員から10人を選定し、学校図書館ガイドラインの草稿を行いました。
- ・コロナ禍での図書館活動啓発キャンペーンとして、国内全土でのラジオを通したおはなし読み聞かせと、カブール、ナンガハル、ラグマン州の学校計15校で図書の貸出サービスを中心とした移動図書館活動（延べ3,134人の児童が参加）を行いました。

2. 子ども図書館の運営

ナンガハル州ジャララバードで運営している子ども図書館は、コロナ感染拡大により閉鎖となった3月～8月を除き、138日間開館しました。

年間利用者は22,178人（うち51%は女子）、1日あたり160人が利用しました。利用者の31%は孤児や元難民、国内避難民、障がいのある子どもなど脆弱性の高い子どもたちでした。

3. 絵本・紙芝居出版

児童図書5タイトル（絵本4タイトル、紙芝居1タイトル）を現地の画家2名とともに制作しました。



カブール事務所職員



ジャララバード事務所職員

所長メッセージ

事務局長 兼
アフガニスタン事務所 所長
山本 英里



長引く紛争に続き新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、人口の42%が緊急人道支援を必要としており、これまでにない人道危機に直面しています。現地職員の報告によると、職を失った多くの国内避難民、帰還民の人々が街の中心部で物乞いをする様子は、かつてタリバン政権が崩壊した直後よりひどい状況のようです。特に冬場のマイナス30度の極寒の中で子どもたちの様子が気になります。2020年は治安の悪さに加えて感染リスクと隣り合わせのなか、こんな時だからこそ私たちの役割がある、という思いで職員一丸となって支援活動を継続しました。コロナ禍でも可能な読書推進として、ラジオでの読み聞かせキャンペーンを新たに始めました。

Myanmar

ミャンマー

オンラインを活用して事業を継続

新型コロナウイルスの感染が拡大し、ピーク時には1日あたり約1,500人の感染者が確認されました。全国の小学校も6月以降閉鎖され、子どもたちは自宅学習教材を利用して学習を継続しています。シャンティでは事業対象地の公共図書館とともにオンライン読み聞かせ動画を作成し、SNSを通じて子どもたちへ読書の機会を提供しました。また、会議や研修もオンラインツールを活用して開催し、コロナ禍においても事業を継続しました。

実績

絵本・紙芝居出版：

4タイトル、21,250冊

図書館活動参加者：

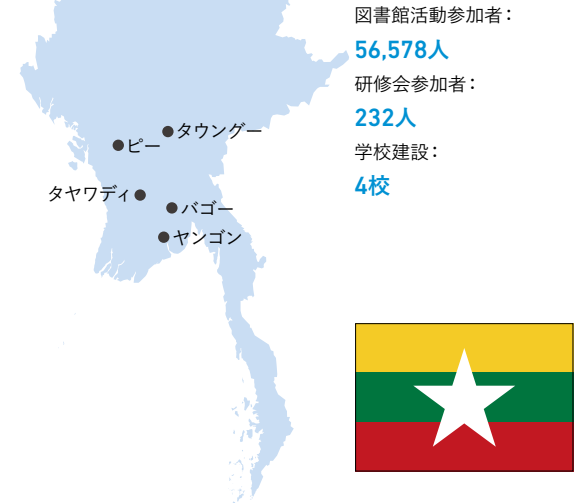
56,578人

研修会参加者：

232人

学校建設：

4校



写真内絵本『おおきなふ』福音館書店



事業

1. 学校建設

公立学校4校の建設を予定し、うち2校が完成しました。コロナ禍で頻繁に工事現場へ行くことが困難だったため、各学校の運営委員の協力の下、SNSを活用したモニタリング方法を取り入れられました。

2. 初等教育における読書推進活動

- ・公立小学校10校に図書コーナーを設置し、738冊ずつ絵本を配架しました。教員への図書館研修をオンラインで実施し、42人が参加しました。
- ・学校図書館の設置・運営方法に関する説明会を実施し、郡教育局の職員や学校長ら72人が参加しました。
- ・児童図書出版委員会を対象に専門家による研修をオンラインで実施しました。同委員会作成の4作品を出版しました。
- ・14の公共図書館から各18校の小学校に1回ずつ移動図書館を実施しました。3月以降、移動図書館の実施が困難になったため、公共図書館員によるオンライン読み聞かせ動画の作成など、代替の活動を実施しました。

3. 東バゴー地域における読書推進活動

14の公共図書館から各15校の小学校へ移動図書館を実施しました。3月以降は東バゴー地域でも移動図書館が困難になり、公共図書館と共にオンライン読み聞かせ動画を作成、配信しました。

公共図書館員への読み聞かせの研修をオンラインで実施し、28人が参加しました。



ミャンマー事務所職員

所長メッセージ

ミャンマー事務所
所長
市川 斉



ミャンマーでは3月に新型コロナウイルスの感染1例目が確認され、12月末時点で累計12万人以上の感染者が確認されました。ミャンマー政府は一定人数以上の集会の禁止など行動制限措置や水際対策を行い感染防止に努めています。事業についてはオンラインを活用した活動へ変更することで継続できていますが、小・中学校は新学期が開始される予定の6月以降1度も開校されておらず、子どもたちの学力低下が懸念されます。私自身は4月に日本へ緊急帰国して以降、日本から遠隔で事業を運営していますが、現地職員が円滑に事業を進めてくれており、改めて現地職員の頼もしさを実感しています。

ミャンマー国境支援事業

ミャンマー国境支援事業事務所

ミャンマー、カレン州 [MBP事務所]

新たに3事業地でCRC施設を建設

国境地域および隣国タイでも新型コロナウイルスの感染者が確認されたため、タイとの国境が閉鎖され、また国境地域への入域が制限されました。国境地域はインフラの弱い箇所が多く、オンラインを活用した会議や研修の開催も難しい状況が続いています。一方、新規3村でのCRC建設は感染対策を講じながら無事に進めることができました。完成したCRCを起点に学習・情報源の提供を行っていきます。

実績

図書館活動参加者：

3,142人

研修会参加者：

93人

図書館・図書室設置：

CRC3館



事業

コミュニティリソースセンター(CRC)事業

カレン州内のメラトゥー村、タワトー村、レバトー村の3村でコミュニティリソースセンター(CRC)運営委員会を組織し、委員会の役割の確認、本事業の目的の共有などを行いました。また、各村にCRCを建設しました。

2019年から支援しているレイケイコー村およびゾーズイーミヤイン村にてCRC関係者へのフォローアップ研修も行っており、合計5村で難民キャンプからの帰還民を受け入れる準備を進めています。

カレン州内でも新型コロナウイルスの感染者が確認されたことから、フェイスシールドやアルコールスプレーなどの感染対策用品を利用し慎重な運営を心掛けています。



MBP事務所職員

所長メッセージ

ミャンマー国境支援事業事務所
所長
中原 亜紀



タイ、ミャンマーともに新型コロナウイルス対応に追われた一年だったように感じます。感染拡大を防ぐために難民キャンプへの入域が制限され、難民キャンプ内で活動できない期間もありました。ミャンマーのカレン州でも感染防止のために事業地である国境地域への入域が制限され、対面での活動を制限せざるを得ない状況が続いています。国境地域で暮らす人々への支援ニーズがこれまで以上に高まっている一方で活動の幅は狭まっていますが、出来ることを進めていきたいと思っています。

ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所

タイ国境 難民キャンプ [BRC事務所]

感染対策を講じながら図書館運営支援を継続

タイ国内で感染が拡大した一方、難民キャンプ内ではほとんど感染者が確認されていません。しかし、予防の観点から難民キャンプへの入域制限や難民キャンプ内の教育施設の一時閉鎖などが行われました。シャンティが支援するコミュニティ図書館も一時的に閉鎖しましたが、衛生用品(マスク、消毒液など)の配布や消毒作業の実施を行い、感染対策に留意しながら図書館サービスの提供を継続しています。

実績

絵本・紙芝居出版：

1タイトル(2言語)、

2,000冊

図書館活動参加者：

180,001人

研修会参加者：

505人



事業

コミュニティ図書館運営

タイ国内の難民キャンプにおいては、2000年から15館のコミュニティ図書館の運営支援を行っています。2020年の年間利用者数は15館全体で180,001人(子ども111,402人、成人68,599人)でした。

図書館15館に大人用書籍9,315冊(新聞、雑誌、小説など)、子ども用の絵本4,238冊(日本語、タイ語)、参考書1,358冊を配架しました。また、新型コロナウイルス感染予防物資(マスク、石けん、ハンドジェルなど)を各図書館に配布しました。



BRC事務所職員

副所長メッセージ

ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所
副所長
ジラボーン・ラウィルン(セイラー)



新型コロナウイルス感染拡大の影響により、タイ側の難民キャンプの図書館を一時的に閉鎖しました。再開後は入館前の検温や手洗いなど感染対策をしながら開館しています。子どもたちは読み聞かせが大好きで、図書館員はマスクやフェイスシールドを装着し、できる限り機会を提供しています。11月にコロナ禍の現状をお伝えするオンラインイベントがありました。普段お会いできない日本の皆さまに活動を紹介でき、質疑応答を通じて参加者の絵本への思いを伺えた貴重な機会になりました。大変な状況にありますが、これからも、これまでと同じような活動を子どもたちに届けたいと思います。

国内での活動

事業

新型コロナウイルス対応緊急救援事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響で休校や外出自粛などの措置が取られたなか、シャンティは、家庭で過ごす時間が増えた子どもたちの健康や心のケアを目的に「たのしく学べるおうち時間」プロジェクトを実施しました。特にサポートが必要な1人親家庭や外国ルーツの家庭、災害で被災した家庭などの子どもたちに対し、教材や絵本、文具の配布を行いました。紙媒体や映像を通じて海外の子どもたちが暮らす環境などを学ぶことができるシャンティオリジナルの教材を作成し、計1,050世帯に支援を届けました。

令和2年7月豪雨

線状降水帯による影響で、九州地方の複数地域で水害が発生しました。職員3名を派遣し、地元の支援団体と協力しながら被害状況の調査、物資配布、ボランティアバスの運行、傾聴カフェの活動を行いました。また図書室が水に浸かった小・中学校への蔵書支援も行いました。活動に際し、感染予防対策を徹底しながら実施しました。

被災地間交流プログラム

東日本大震災や平成30年7月豪雨で被災した地域の子ども同士が交流できるプログラムを計2回*行いました。夏のプログラムは感染対策として、オンラインに切り替えて行いました。それぞれの地域の魅力や課題、取り組んでいる活動を発表し合うプログラム、災害後の復興に向けた取り組みを学ぶプログラムなどを通して、参加した子どもたちの自己肯定感や協調性、共感する力が高まるのを感じました。

*◎2020年2月：愛媛県で宮城県気仙沼市、福島県南相馬市と愛媛県西予市、宇和島市の中高生が交流。◎2020年8月：オンラインで愛媛県西予市、福島県南相馬市、宮城県気仙沼市の中高生が交流。



感染対策を講じながらのサロン活動の様子



配布したオリジナルワークキット
『おつきさまひとつづつ』作：長野ヒデ子、出版社：童心社
『この計画はひみつです』文：ジョナ・ウィンター、絵：ジャネット・ウィンター、訳：さくまゆみこ、出版社：鈴木出版

海外での活動

事業

アフガニスタン：帰還民・国内避難民への緊急救援

①「女性および子どもの保護・教育・水衛生支援」ナンガハル県、クナール県

2019年より開始した国内避難民（IDP）や近隣国から帰還した難民の支援活動を2020年7月に完了しました。

国内避難民・帰還民の流入が集中しているナンガハル県とクナール県において、女性センターを設置し、対象地域の女性2,133人に対して、識字教室、縫製教室および女性保護に関する研修やイベントなどを実施しました。

子どもたちが勉強を続けることができるように地域にコミュニティベースの教室を設置し、960人の子どもたちに就学サポートを行いました。

水衛生環境が整っていない対象地区2カ所において、400世帯（約2,800人）の人たちが安全な水にアクセスできるように井戸の開設、衛生啓発を行いました。

②「教育及び水衛生支援」クナール県

3月よりクナール県において、教育・水衛生支援事業を新たに開始しました。対象校2校において、仮設教室、水衛生施設の設置および衛生啓発を実施しています。

アフガニスタン：新型コロナウイルス感染拡大に対する緊急救援

感染拡大による社会経済状況の悪化を受け、4月から約4カ月間ジャララバード市内およびクナール県、7月からの2カ月間は国連世界食糧計画（WFP）と共にジャララバード市内にて、それぞれ緊急の食料配布や感染予防の啓発活動を実施しました。



縫製教室に通うアフガニスタンの女性たち



食料を受け取るアフガニスタンの人々

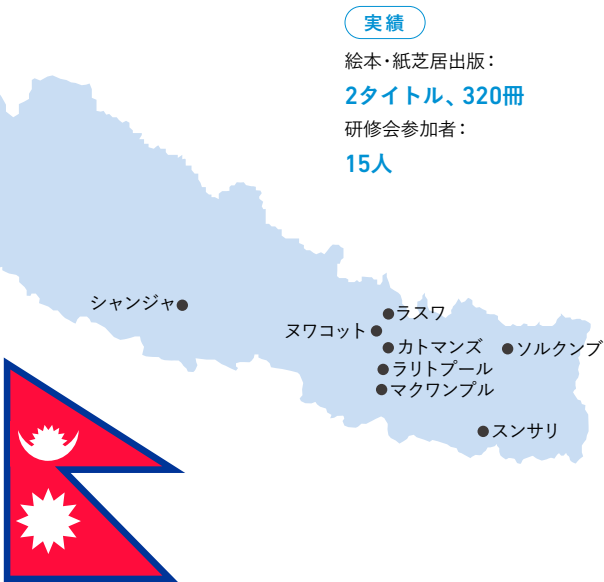
緊急人道支援

紛争や貧困、自然災害により困難な状況に置かれた人々に対し、シャンティは緊急支援物資の配布や生活再建支援などを行ってきました。また、災害時の緊急期においても子どもたちの学びを守るため、教育支援活動にも取り組んでいます。

Nepal
ネパール

復興から次のフェーズへ3つの新事業を開始

3月下旬から7月下旬までネパール全土でロックダウンが実施され、貧困層の人々の生活は、ますます困窮しています。家庭での女性への暴力や、児童虐待が増加し、課題となっています。ネパールでは、近年の経済発展の反面、国内の格差が広がっています。2015年に発生した大地震の復興支援を経て、次のフェーズとして、2020年から格差の是正を目指し、被災地や先住民族が多く暮らす貧困地域の教育の質を改善する3つの新事業を開始しました。



実績

絵本・紙芝居出版：
2タイトル、320冊
研修会参加者：
15人



事業

1. 学校建設

コロナ禍のため建設工事が大幅に遅れ、事業対象3校（ヌワコット郡2校、ラスワ郡1校）は、2021年1月に工事を完了しました。

2. 先住民族地域における地域学習の
カリキュラム開発・普及事業

先住民族が多く暮らすマクワンプル郡ラクシラン自治体で、自分が暮らす地域について学ぶ「地域学習」という新しい科目の授業を、53校で普及するために、カリキュラム開発ワークショップを実施しました。自治体独自の地域学習カリキュラムと教員用手引書、1～5年生用の教科書が完成しました。

3. コミュニティ図書館事業

1館のコミュニティ図書館の建設を開始しましたが、コロナ禍の影響により工事が遅れ、2021年7月に完成予定です。また、この1館の図書館運営委員会への研修も実施しました。

4. 国連世界食糧計画（WFP）と連携した
栄養教育改善事業

WFPがヌワコット郡の440の小・中学校で行う学校給食の改善のための事業のうち、栄養教育に関する活動をシャンティが担います。現地のパートナー NGOと契約し、事業関係者とのキックオフ会合を実施しました。また、栄養教育に関する紙芝居を制作しました。



ネパール事務所職員

所長メッセージ

ネパール事務所
所長
三宅 隆史



ネパールでは3月下旬から7月下旬まで全土でロックダウンとなり、経済は大打撃を受け、仕事を失った出稼ぎ労働者や都市の貧困層が最も影響を受けました。シャンティの事業地でも、学校建設や図書館建設などに大幅な遅れがでました。学校は約7カ月閉鎖となり、子どもたちは学びの機会を失いました。現在は感染予防対策を取りながら徐々に再開しています。私自身は昨年6月に一時帰国し、10月に戻るまで遠隔で事業運営を行いました。対面でのイベントが難しい中で行った11月のオンラインイベントでは、ネパール事業やネパールの現在の状況を、新たな形で現地スタッフと一緒にお届けできたと感じました。

2020年度の実績

絵本を届ける運動

参加数	16,719冊 2,166件
タイトル数	42タイトル
出版社数	17社



アフガニスタンのムスカンさん

ラオスのパチュアさん
「どうすればいいのかな？」文：わたなべしげお、絵：おおとも やすお、出版社：福音館書店

2020年度に届けた絵本の例

『けんかのきもち』

文：柴田 愛子
絵：伊藤 秀男
ポプラ社



『あのひのこと—Remember』

March 11, 2011』

文・絵：葉 祥明
佼成出版社

クラフトエイド

取扱	24店
期間限定販売	4回



2020年の新商品



期間限定ショップ



2020年のヒット商品：カンボジアのスンバック

その他の実績

メディア掲載	100件
講演	28件 2,165人
イベント開催	9回 ・うちオンライン7回 615人 ・うちオンライン381人

事務所訪問	1件 3人
-------	----------

メディア掲載（100件）

NHKニュースウォッチ9／NHK Eテレ／BSフジ／日本テレビ／朝日新聞／朝日新聞デジタル／朝日中高生新聞／産経新聞／読売新聞／毎日新聞／東京新聞／東京新聞WEB／中日新聞／あぶくま時報／秋田魁新報／文化時報／伊勢新聞／愛媛新聞／大分合同新聞／北日本新聞／岐阜新聞／熊本日日新聞／上毛新聞／高知新聞／信濃毎日新聞／中外日報／中国新聞／東海新聞／徳島新聞／長野市民新聞／西日本新聞／日本海新聞／日本外食新聞／福井新聞／フジサンケイビジネスアイ／北陸中日新聞／山口新聞／仏教タイムス／曹洞宗報／『育てる』／『教育と文化』／『FRAU SDGs MOOK MONEY』／寺社Now／東京ボランティアポータル／曹洞宗禅ネット／みやけしま社協だより／エルセラーン化粧品株式会社 公式HP／『現代ネパールを知るための60章』など（重複除く）

イベント開催（9回 | 615人）

【共催】曹洞宗宗務庁／曹洞宗婦人会／全国曹洞宗青年会

講演（28件 | 2,165人）

WE21ジャパンとつか／JP労組東北地方ユースネットワーク／株式会社マクロミル／佼成学園女子高等学校／北名古屋市長五条小学校／ガールスカウト静岡県第33団・第34団／横浜市立箕輪小学校／日本郵船株式会社／ディー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社／川村学園女子大学／三菱食品株式会社／サントリーホールディングス株式会社／情報労連東海ブロック支部／部落解放東海ブロック共闘連絡会議／パルシステム東京あおと委員会／東泉寺／静岡県第三宗務所／東北福祉大学／徳泉寺／いずれも曹洞宗青年会など
（以下オンライン開催）福井ライオンズクラブ／JPモルガン／テレフレックスメディカルジャパン／LIXIL／上尾北ロータリークラブ／エデンレッドジャパンなど（順不動）

事務所訪問受入（1件 | 3人）

東京女学館中学校

国内で参加できる支援プログラム

シャンティでは、海外での事業を支えるために、日本国内で参加できる

プログラムを実施しています。絵本に翻訳シールを貼る。

作り手の思いが詰まった製品を購入する。そのご支援は、アジアの子どもたちの

教育や地域の伝統技術・文化を支え、守ることにつながっています。

絵本を届ける運動

日本で出版された絵本に、現地の言葉に翻訳したシールを貼り、シャンティが支援するアジアの子どもたちに届けています。翻訳シールを貼る作業は、個人でも団体でも気軽にご参加いただけます。1999年に開始してから2020年で21年目を迎えました。

・国と地域 カンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ） 難民キャンプ、アフガニスタン、ミャンマー

・翻訳言語 クメール語、ラオス語、カレン語、ビルマ語、バシュトゥー語／ダリ語 [アフガニスタンへ届ける言語（バシュトゥー語／ダリ語）は年によって異なります]

・これまでに届けた絵本 347,035冊

タイトル数：276タイトル、出版社数：37社、参加者数：のべ277,497人、企業・団体1,678件



絵本を手にした子どもたち

難民キャンプで絵本を手にした人々のストーリーを映像におさめました。YouTubeでご覧いただけます。



クラフトエイド

クラフトエイドは、アジアの女性たちが、時間と手間をかけて丁寧に手作りしたものを販売するシャンティのフェアトレード事業です。現地のパートナー団体と共に、刺繍や織りなどの代々伝わる伝統文化や技術を取り入れた商品を製作し、皆さまへご紹介しています。

・取扱商品 バッグ、アクセサリー、ポーチ、ステーションリー、マスコット、キーホルダー、フェアトレード食品（コーヒー、紅茶、胡椒）など

・生産国 タイ、ラオス、カンボジア、ミャンマー、アフガニスタン

作り手たちの今

右の写真は、タイのカレン族の女性たちです。北タイ地域に多く住む山岳少数民族で、自然と共に生きることを大切にしています。カレン族の作り手たちは、伝統技術を活かしてバッグやポーチなどを製作しています。クラフトエイドの商品は、オンラインでもお買い求めいただけます。

クラフトエイド
オンラインショップ

アジアの図書館サポーター

アジアの子どもたちに本を読む機会や、安心できる場所を届けるため、継続的にサポートいただくプログラムです。1冊の絵本が子どもたちの知る力、想像する力を育み、学ぶ機会につながります。

サポーターができること

1日33円 / 年で

移動図書館を6回行うことができます。



「ふしぎなたけのこ」作：松野正子、絵：潮川康男、出版社：福音館書店

1日100円 / 年で

運営する図書館に絵本60冊を買うことができます。



1日200円 / 年で

本でいっぱいにした本棚を5つ設置できます。



もので寄付するプロジェクト

読み終えた本や使わなくなったブランド品、貴金属、商品券や書き損じはがきなどをお譲りいただくと、提携企業が査定して、買取額が寄付となります。

回収品の例

本・CD	●書籍 ●コミック ●音楽CD ●DVD／Blu-ray ●ゲームソフト／ゲーム機 ●スマートフォン
商品券・金券	●全国共通商品券 ●旅行券 ●ビール券／お米券 ●図書券／図書カード ●書き損じはがき ●未使用の切手／はがき
それ以外のお宝	●金・プラチナ・貴金属・宝石 ●ブランド品 （バッグ・食器・時計） ●古銭・古紙幣／金貨・貨幣 ●骨董品・工芸品 ●カメラ・レンズ ●楽器（ギター、管楽器）など



回収品の例



書き損じはがき

詳しくはこちら

🔍 シャンティ国際ボランティア会

https://sva.or.jp/



ご支援・ご協力・連携実績

2020年も、個人・団体からのご寄付に加えて、活動を通して様々なご支援・ご協力をいただきました。

ご支援・ご協力

・アジアの図書館サポーター(マンスリーサポートプログラム)

新規申込 **934**人 *2020年1月～12月

合計 **2,311**人 *2020年12月末時点

・個人からの寄付

6,438人 / **121,591,661**円

・団体からの寄付

1,645団体 / **194,354,255**円

・ボランティア・インターン

絵本を届ける運動

翻訳ボランティア：1人

クラフトエイド

事務所ボランティア：8人

東京事務所インターン

広報・リレーションズ課：4人

事業サポート課：4人

・プロボノ・協力者

aurinco (アウリンコ) さん

沼田 智美さん

きよはら えみこさん

保田 卓也さん

川畑 嘉文さん

安井 浩美さん

江藤 孝治さん

和田 元さん

高橋 明日香さん

外務省「日本NGO連携無償資金協力」

・ネパール

ヌワコット郡、ラスワ郡の被災小学校における防災能力強化事業 | 被災地、先住民族地域における教育の質の改善事業

・アフガニスタン

子どものための図書館普及にむけた基盤整備事業

・カンボジア

バットアンバン州における図書館活動を中心としたモデル中央幼稚園整備事業

・ミャンマー

西バゴー地域の初等教育における読書推進事業

・ミャンマー国境

ミャンマーカレン州南東部におけるコミュニティリソースセンターを通じた復興・再定住支援事業 | ミャンマーカレン州東部および南部におけるコミュニティリソースセンターを通じた復興・再定住支援事業

国際協力機構（JICA）「草の根技術協力事業」

・ラオス

ラオス北部地域の教員養成校指導教官の能力強化を通じた、複式学級運営改善事業（草の根パートナー型）(第2年次)

・カンボジア

幼児教育カリキュラムに基づく「遊びや環境を通した学び」実践のための基盤構築事業（草の根パートナー型）(第1期)

ジャパン・プラットフォーム（JPF）

・アフガニスタン

ナンガハル県及びクナール県における国内避難民・帰還民への保護・教育・水衛生支援事業 | クナール県における国内避難民・帰還民への教育及び水衛生支援 | ナンガハル県における新型コロナウィルス感染予防のための啓発と衛生用品および緊急食糧配布事業

・日本

熊本県でのボラパス運営補助・蔵書支援、福岡県での民間ボラセン運営補助と傾聴活動事業

国連世界食糧計画（WFP）

・ネパール

ヌワコット郡における学校給食計画

・アフガニスタン

ジャララバード市内における緊急食糧配布事業

後援

・「絵本を届ける運動」|「アジアの図書館サポーター」

文部科学省

(公社) 日本図書館協会

(公社) 読書推進運動協議会

シャンティとは

シャンティは40年以上、アジアの国々で教育文化支援活動が続けてきました。「教育には人生を変える力がある」と信じ、地域の文化や対話を大切にしながら、図書館活動や学校建設、人材育成などを行っています。

シャンティの理念

共に生き、共に学ぶ

世界には、紛争や貧困、自然災害などで教育を受けられない人たちがたくさんいます。

私たちは、厳しい環境の中でも安心して学べる機会をつくる活動を行っています。

使命

人間の尊厳と多様性を尊び「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和（シャンティ）な社会を目指します。

目指す姿

人々の考える力、創造する力を支え、共に社会や生活の問題を解決していくNGOとなります。

子どもたちが安心して学べる環境をつくるために

私たちが目指すのは本に触れる文化づくりと、教育の質の向上です。

そのためには「1. 学ぶための本や教材」、「2. 学びを届ける人」、「3. 安心して学べる場所」、そして「4. 学びと出会うための活動」が欠かせません。



2030年までの達成を目指す

「持続可能な開発目標（SDGs）」

世界の国々が話し合い、2030年までに先進国、途上国を問わず、世界が取り組むべき

17の目標として、2015年9月に国連総会で「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されました。私たちは「目標4. 質の高い教育をみんなに」の達成に向け、教育課題の解決のみならず、SDGsが掲げるさまざまな目標達成に向けた取り組みを行っています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

シャンティが主に取り組む

「持続可能開発目標（SDGs）」の目標



組織概要

法人名：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

設立：1981年12月10日

社団法人登記日：1999年8月19日

公益社団法人移行登記日：2011年1月4日

顧問

足立 房夫 一般社団法人協力隊を育てる会 顧問

阿部 豊淳 宮城県・光寿院 住職

小野田 全宏 特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会 理事長

川原 英照 熊本県・蓮華院誕生寺 貫主
特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会 会長

白石 孝 荒川区職員労働組合 顧問

笛岡 賢司 静岡県・龍谷寺 住職

参与

鬼生田 俊英 曹洞宗 宗務総長

小林 昌道 大本山永平寺 監院

乙川 暎元 大本山總持寺 監院

理事・監事

会長 若林 恭英 安楽友の会 代表、長野県・安楽寺 住職

副会長 神津 佳予子 株式会社KOZUstyle 代表取締役

副会長 三部 義道 もがみ地産地消エネルギー 代表、山形県・松林寺 住職

専務理事 岡本 和幸 上総自然学校 代表、千葉県・真光寺 住職

常務理事 有馬 嗣朗 あんでねっと事務局、山口県・原江寺 住職

常務理事 茅野 俊幸 (公財) 庭野平和財団 理事、長野県・瑞松寺 住職

常務理事 秦 辰也 近畿大学国際学部 教授

常務理事 八木澤 克昌 シャンティ国際ボランティア会 常勤役員

理事 浅野 幸子 早稲田大学地域社会と危機管理研究所 招聘研究員

理事 竹俣 昭孝 (公財) 全日本仏教尼僧法団 理事、東京都・大林院 住職

理事 東海 泰典 東北シャンティ 代表、宮城県・松源寺 住職

理事 直井 里予 京都大学東南アジア地域研究研究所 連携講師／映像作家

理事 早坂 文明 宮城県・徳本寺 住職

理事 松永 寛道 静岡県・宗徳院 住職

理事 山本 英里 シャンティ国際ボランティア会 事務局長

理事 横澤 敬雄 長野県・東昌寺 住職

監事 中山 雅之 国士館大学大学院グローバルアジア研究科 教授

監事 野中 茂 公認会計士（野中公認会計士事務所）

専門アドバイザー

天野 教之 天野医院 院長

大菅 俊幸 曹洞宗総合研究センター 講師

鎌倉 幸子 かまくらさちこ株式会社 代表取締役

高田 博嗣 株式会社NHKグローバルメディアサービス ニュース製作部 統括部長

手束 耕治 カンボジア宗教省仏教研究所 顧問

藤谷 健 朝日新聞社東京本社デジタル機動報道部長 兼
ジャーナリスト学校デジタル推進担当部長

国内における主な受賞歴

正力松太郎賞(1984年)

ソロプチミスト日本財団賞(1985年)

外務大臣賞(1988年)

毎日国際交流賞(1994年)

東京都豊島区感謝状(1995年)

防災担当大臣賞(2004年)

兵庫県知事感謝状(2005年)

第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」(2008年)

宮城県社会福祉協議会感謝状(2011年)

ESD岡山アワードグローバル賞(2015年)

スポーツ庁長官感謝状(2019年)

第14回かめのり賞 特別賞(2020年)

参加ネットワーク一覧

・国内

SDGs市民社会ネットワーク|NGO安全管理イニシアティブ(JaNISS)

【世話人】／NGO外務省定期協議会／NGO-JICA協議会／NGOと

企業の連携推進ネットワーク／NGO-労働組合国際協働フォーラム

／NGO非戦ネット【呼びかけ人】／市民社会スペースNGOアクション

ネットワーク(NANCiS)開発教育協会(DEAR)／紙芝居文化推進協議

会／カンボジア市民フォーラム【世話人】／教育協力NGOネットワ

ーク(JNNE)【事務局長】／国際協力NGOセンター(JANIC)／シーズ・市

民活動を支える制度をつくる会／ジャパン・プラットフォーム(JPF)／

多文化としまネットワーク／多文化共生教育ネットワーク東京(TEAM-

Net)／地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)／震災がつなぐ全国ネット

ワーク(震つな)／東京災害ボランティアネットワーク(東災ボ)【副代

表】／東京都災害ボランティアセンター・アクションプラン推進会議

【幹事団体】／日本アフガニスタンNGOネットワーク(JANN)／日本

NPOセンター／日本図書館協会／日本ファンドレイジング協会／日

本UNHCR-NGOs評議会(J-FUN)／庭野平和財団【理事】／防災・減

災日本CSOネットワーク(JCC-DRR)／東日本大震災支援全国ネット

ワーク(JCN)／仏教NGOネットワーク(BNN)【副理事長、事務局長】

・海外

カンボジア

Cooperation Committee for Cambodia(CCC)／

NGO Education Partnership(NEP)／カンボジア市民フォーラム／

Japanese NGO Worker's Network in Cambodia(JNNC)

ラオス

International NGO Network／Japanese NGO Meeting(JANM)

ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ

Committee for Co-ordination of Services to Displaced

Persons in Thailand(CCSPT:難民支援事業調整委員会)

アフガニスタン

Agency Coordinating Body For Afghan Relief(ACBAR)

ミャンマー

Japan NGOs Network – Myanmar(JNN-Myanmar)

ネパール

Association of International NGOs in Nepal(AIN)

全体

Asia South Pacific Association for Basic and Adult Education

(ASPBAE)【理事】／The Asia Disaster Reduction & Response

Network (ADRRN)

組織図

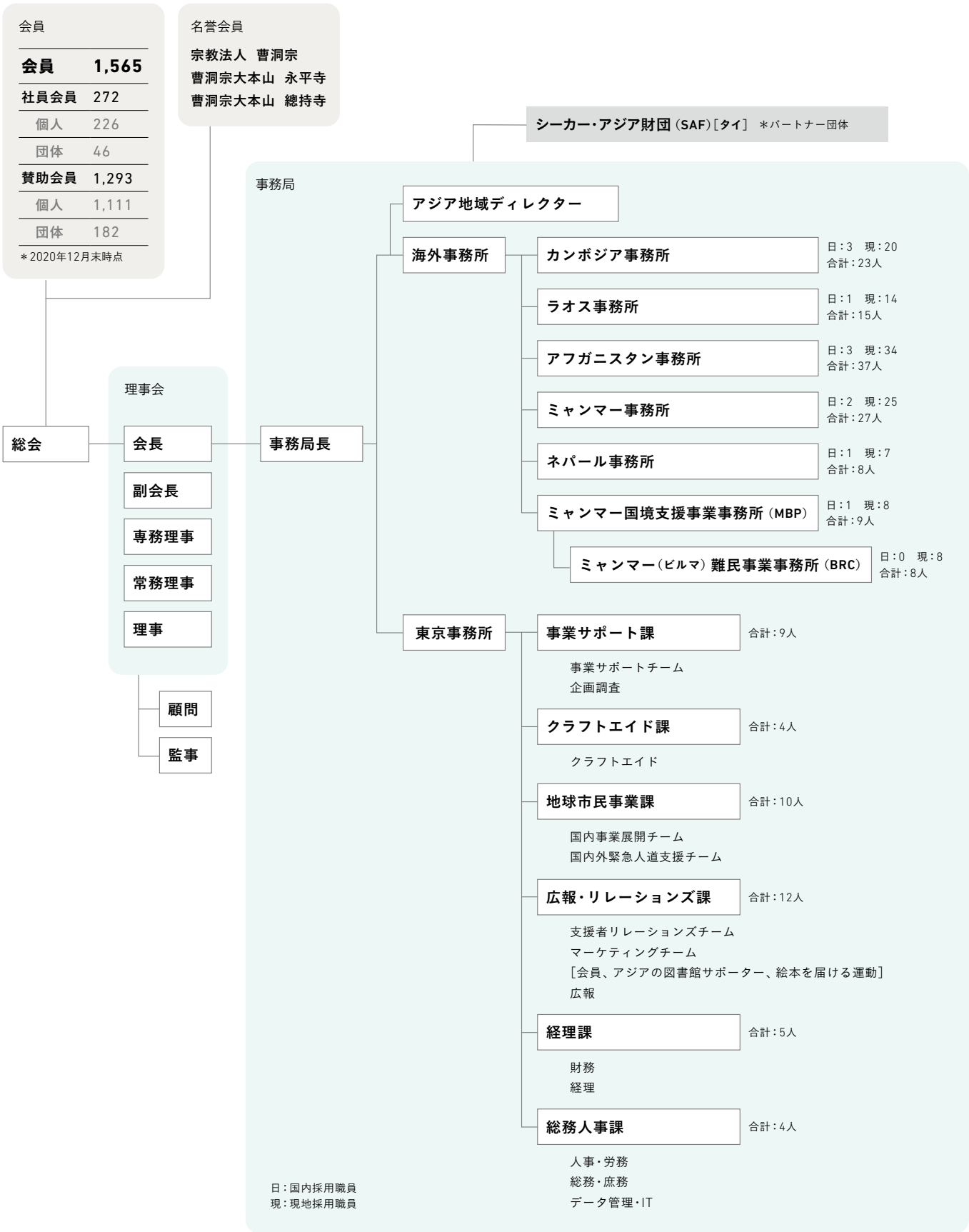
事務局員 172人

(SAF、インターン含まず)

国内採用職員 56人

現地採用職員 116人

＊2021年4月1日時点



会計報告

貸借対照表

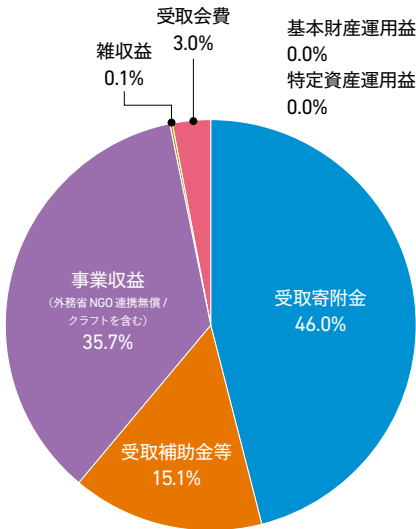
資産の部（単位：円）	
1. 流動資産（現預金等）	47,055,447
2. 固定資産	
（1）基本財産	50,000,000
（2）特定資産（特定預金）	327,706,133
（3）その他固定資産（固定資産物品等）	9,573,526
固定資産合計	387,279,659
資産合計	434,335,106

負債の部	
1. 流動負債（預り金等）	59,828,988
2. 固定負債（退給引当金）	23,642,676
負債合計	83,471,664

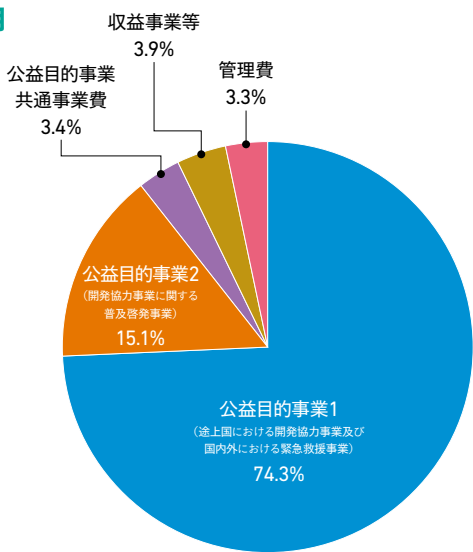
正味財産の部	
1. 指定正味財産	303,545,000
2. 一般正味財産	47,318,442
正味財産合計	350,863,442

負債、正味財産合計	434,335,106
-----------	-------------

収益



費用



正味財産増減計算書

一般正味財産の部（単位：円）
経常増減の部

1. 経常収益	
基本財産運用益	97,500
特定資産運用益	115,213
受取会費	22,902,500
受取寄附金	351,997,413
受取補助金等	115,607,005
事業収益（外務省 NGO 連携無償 / クラフトを含む）	273,309,982
雑収益	1,111,475
経常収益合計	765,141,088
2. 経常費用	
事業費	
公益目的事業 1 （途上国における開発協力事業及び国内外における緊急救援事業）	
タイ事業費	7,719,058
カンボジア事業費	75,063,176
ラオス事業費	36,441,349
ミャンマー難民事業費	83,918,966
アフガニスタン事業費	197,646,195
ミャンマー事業費	62,376,564
ネパール事業費	55,645,633
東日本大震災支援事業費	5,302,573
緊急支援費	33,146,749
海外事業支援費	28,460,344
アジアの図書館サポーター事業費	4,848,219
公益目的事業 1 合計	590,568,826
公益目的事業 2 （開発協力事業に関する普及啓発事業）	
絵本を届ける運動事業費	39,481,698
広報事業費	71,074,860
国内事業	9,347,478
公益目的事業 2 合計	119,904,036
公益目的事業共通事業費	26,753,754
公益目的事業合計	737,226,616
収益事業等	
クラフトエイド事業費	25,401,680
本で寄付するプロジェクト事業費	5,962,531
収益事業等合計	31,364,211
管理費合計	25,893,972
経常費用合計	794,484,799

評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 29,343,711
評価損益等計	0
当期経常増減額	▲ 29,343,711

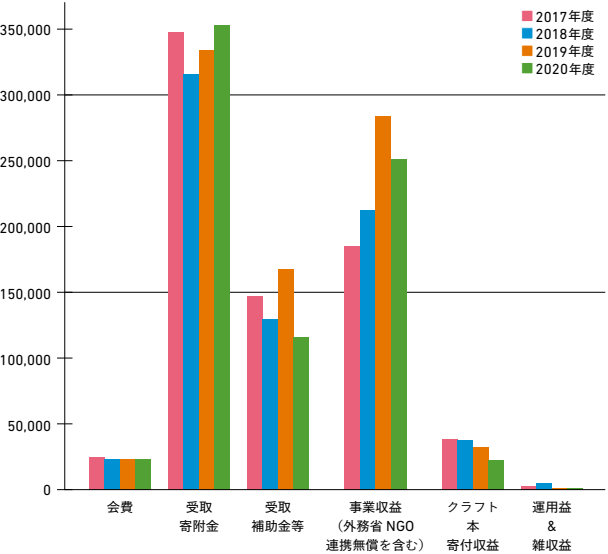
経常外増減の部	
経常外収益計	0
経常外費用	606,209
当期経常外増減額	▲ 606,209
税引前当期一般正味財産増減額	▲ 29,949,920
法人税、及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額	▲ 30,019,920
一般正味財産期首残高	77,338,362
一般正味財産期末残高	47,318,442

指定正味財産の部	
基本財産運用益、特定資産運用益	212,713
受取補助金	294,646,320
受取寄附金	150,123,786
一般正味財産への振替額	▲ 488,308,168
補助金返還金	▲ 7,636,038
当期指定正味財産増減額	▲ 50,961,387
指定正味財産期首残高	354,506,387
指定正味財産期末残高	303,545,000

正味財産合計	350,863,442
--------	-------------

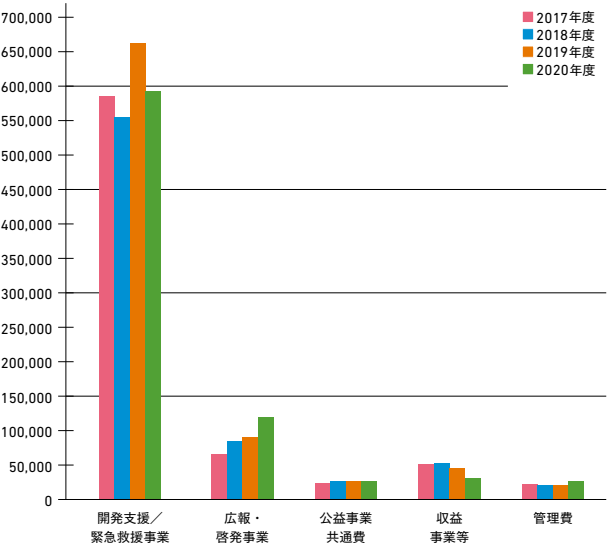
年度別収益推移表（一般正味財産）

（単位：千円）				
収益	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
会費	24,364	23,296	22,921	22,903
受取寄附金	346,663	315,266	333,412	351,997
受取補助金等	146,443	129,057	167,001	115,607
事業収益（外務省 NGO 連携無償を含む）	184,771	211,718	282,868	250,762
クラフト本寄付収益	38,268	37,329	32,524	22,548
運用益 & 雑収益	2,311	5,121	927	1,324
合計	742,820	721,787	839,653	765,141



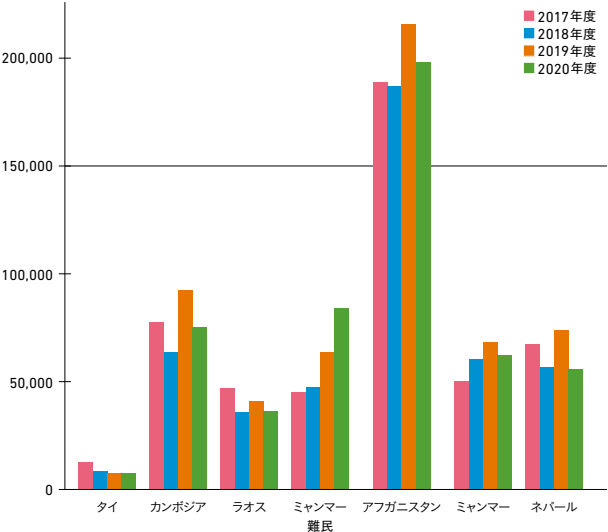
年度別費用推移表

（単位：千円）				
費用	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
開発支援／緊急救援事業	584,080	553,949	660,834	590,569
広報・啓発事業	65,425	84,210	90,997	119,904
公益事業共通費	23,486	26,541	26,177	26,754
収益事業等	50,786	53,389	45,471	31,364
管理費	22,821	20,428	21,545	25,894



年度別開発支援事業費推移表

（単位：千円）				
	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
タイ	12,660	8,389	7,630	7,719
カンボジア	77,363	63,481	92,077	75,063
ラオス	46,888	35,764	41,153	36,441
ミャンマー難民	44,945	47,306	63,500	83,919
アフガニスタン	188,703	186,673	215,224	197,646
ミャンマー	50,021	60,286	68,054	62,377
ネパール	67,260	56,465	73,794	55,646



独立監査法人の監査報告書抜粋

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

2021年2月24日

田中義幸公認会計士事務所

東京都新宿区

公認会計士

田中義幸

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会は、当会監事による監査および田中義幸公認会計士事務所による財務諸表の外部監査を受けております。



1980

タイ
サケオ難民キャンプ



1981

タイ
カオイダン難民キャンプの
常設図書館



1982

タイ
コンケン大学での謄写版
ワークショップ



1983

タイ
カオイダン難民キャンプ
活動の相談をするスタッフ



1984

タイ
おはなしキャラバンによる
カンボジア難民キャンプ
での公演



1985

タイ
カオイダン難民キャンプの
印刷センターに設置した
図書箱



1986

タイ
カンボジア難民キャンプに
届けた慈愛の衣類



1987

タイ
バーンサワイ村での
人形劇公演



1988

ラオス
視察先の保育園の
子どもたち



1989

タイ
区画整理後の
クロントイスラム



1990

ラオス
バンビナイ難民キャンプでの
謄写版ワークショップ



1991

カンボジア
移動図書館活動での
自由読書



1992

ラオス
移動図書館活動に参加した
子どもたち



1993

カンボジア
旧プノンペン事務所での
おはなしの読み聞かせ



1994

ラオス
小学校での紙芝居の
読み聞かせ



1995

日本
阪神淡路大震災での
緊急救援



1996

カンボジア
ワークショップ受講者による
おはなしの読み聞かせ



1997

カンボジア
学校建設の現場



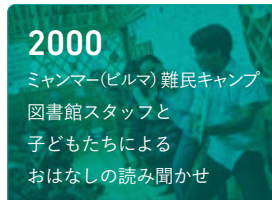
1998

カンボジア
職業訓練所内の縫製部門



1999

カンボジア
謄写版を使って
文字が刷れた！



2000

ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ
図書館スタッフと
子どもたちによる
おはなしの読み聞かせ



2001

ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ
メコンカ難民キャンプの
最初の図書館開館日



2002

ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ
ヌボ難民キャンプの
図書館利用者



2003

アフガニスタン
紙芝居ワークショップ



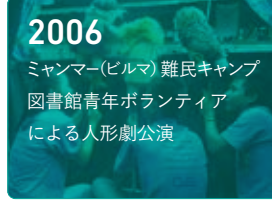
2004

アフガニスタン
小学校でのおはなしの
読み聞かせ



2005

アフガニスタン
図書館で遊ぶ子どもたち



2006

ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ
図書館青年ボランティア
による人形劇公演



2007

ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ
子どもたちでいっぱい
の図書館



2008

ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ
図書館でのおはなしの
読み聞かせ



2009

ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ
難民子ども文化祭



2010

カンボジア
小学校の図書室



2011

日本(岩手)
移動図書館車に積まれた
絵本を読む子ども



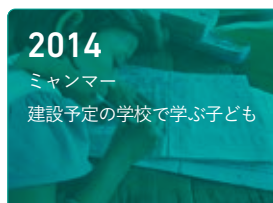
2012

カンボジア
折り紙を楽しむ子どもたち



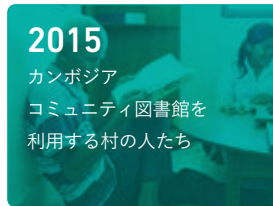
2013

カンボジア
学校図書室を利用する
子どもたち



2014

ミャンマー
建設予定の学校で学ぶ子ども



2015

カンボジア
コミュニティ図書館を
利用する村の人たち



2016

ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ
図書館でのおはなしの
読み聞かせ



2017

アフガニスタン
図書館に通う子どもたち



2018

ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ
学校図書室で絵本を読む
子どもたち



2019

ネパール
建設した学校の
図書コーナーで絵本を読む
子どもたち